

講演会 『茅葺』と古民家を知ろう

作家・中勘助が暮らした「杓子庵」(復元)の茅葺屋根を葺き替えました。

茅葺にはどんな意味があるの？ 古民家って何？

杓子庵の葺き替えをヒントに、古民家の特徴や、その再生方法などについて楽しく解説します。
葺き替えたばかりの美しい茅葺屋根を見ながらの講演会です。

日時 平成26年3月8日(土) 午後1時30分～3時 (受付 午後1時～)

会場 中勘助文学記念館 (静岡市葵区新聞1089-120)

アクセス：しずてつジャストライン 藁科線「見性寺前」下車 徒歩2分
駐車場の数に限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

参加費 無料

対象 どなたでも(定員30名)

講師

かわかみ ゆきお

川上 幸生 (住まい教育推進協会 副理事長)

大阪出身、今から17年前に愛媛県松山市へ移住、12年前より古民家に使われていた木材＝古材の流通に携り、5年前に創設された厚生労働省認可財団法人職業技能振興会認定の「古民家鑑定士」資格者育成の為に教本執筆並びに講習をおこない、資格者がおこなう「古民家鑑定書」を企画、調査結果を元に古民家のコンディションについて判定をおこなっている。

申し込み方法 平成26年2月26日(火)午前9時より静岡市コールセンター(054-200-4894)へ電話にてお申し込みください。(先着順)



中 勘助 (1885-1965)

小説「銀の匙」で知られる中勘助は、昭和18年、58歳の時に療養のため東京から旧服織村(現在の葵区新聞、羽鳥付近)へ移り、4年半を過ごしました。村の自然や村人とのふれあいはその後の作家活動に大きな影響を与え、帰京後も村人との交流は続きました。

静岡市は、勘助が住んだ旧前田邸を中勘助文学記念館として公開しています。

< 中勘助文学記念館 >

入場料:無料 開館時間:午前10時～午後5時

休館日:月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日曜日を除く)、年末年始

電話:054-277-2970

ホームページ http://www.city.shizuoka.jp/deps/bunka/bunkazai_hogo_nakakan_index.htm

主催:静岡市

企画・制作・お問い合わせ:(公財)静岡市文化振興財団 054-255-4746